

## <テーマ>

### 子どもと創る授業

#### ◇第一部 実践発表

子どもの思考の流れを考えた教材研究  
～子ども同士が、互いのよさを認め合える

お話づくりを通して～

伊那市立伊那東小学校教諭 池上 一輝 先生  
指導者 元伊那小学校長 北原 和俊 先生

#### ◇第二部 講演

演題 インクルージョンと協働の発達  
講師 福井大学副学長 松木 健一 先生

教育会の職能研修事業では、教師としての専門性を磨くとともに人間性の向上を図り、地域ともども生涯学習の機会とするために講習講演会事業を実施しています。

授業研修委員会では、昨年度のテーマ「子どもと創る授業」を引き継ぎ、授業実践を通じて子どもの姿から自分たちの授業づくりについて考えることを大切にして研修を深めてきました。第26回を迎える授業研修会はオンライン研修となりましたが、多くの先生が参加して開催されました。また、福井大学副学長の松木健一先生を講師にお迎えし、実践発表内容の子どもたちの姿をもとに教師の資質向上につながるお話をしていただきました。



実践発表する池上一輝先生

2021.1.23

## ～授業研修会の概要～

今年度の授業研修委員会の活動は、新型コロナウイルスの関係で、2学期からのスタートとなりました。その為、これまでのような『その子』と『子ども達』、『担任(教師)』とが、1年間を通して関わり合う中で見えてくる、『その子や子ども達、そして担任の育ちの姿』を研修させていただくスタイルが難しくなりました。

そのような中でも、授業研修委員会として出来ることは何かを考え、今年度は、ある教科(国語)の一単元の学習活動を通して見えてくる『子どもや子ども達、そして担任の育ちの姿』を研修することに決めました。新任2年目の池上教諭が、どの子にも国語力(書く力)が身に付くように熱心に教材研究に取り組む姿や、日々の子どもの姿(特徴)から、学級やその子に合う学習支援の方法を考え行っていく姿などを見せていただくことができました。また、そのような池上教諭の姿から、『教師としての姿(在りよう)』や『人としても大事にしていきたいこと(人間力)』を学ばせていただくことができました。

池上先生は、自身の学級づくりで日常的に取り組んでいる4つの重点を踏まえて、発達特性から学びにくさを感じている複数の子どもたちと向き合いながら、自由に話せる時間を確保して子ども同士が関わり合える学習形態をとったことで、子ども同士の絆がより深まった姿を発表してくださいました。

- ① 叱っても引きずらない・引きずらせない
- ② 基本を大切にしながら、子どもを飽きさせない工夫をする。
- ③ 教師が行う個々への支援と、子ども同士の助け合い
- ④ 教師が褒める。子ども同士も褒め合う。

この中で、授業と学級経営は切っても切り離せないものではありますが、授業をする以前に子どもの精神的な環境を学校で整えなければなら

## 授業研修委員の感想

○子どもたちが主体的に授業に取り組むためには「見通しをもつ」ことが大切である。この国語の授業では、子どもたちが困った時どうすれば良いか単元展開の中で手立てとして支援が準備されていた。困ったときは「友だちと情報交換をする」ことで見通しを持ち、子どもたちは安心して授業に取り組むと共に、お互いに助け合ったり、認め合ったりできる友との協働の良さがあった。この授業を通して、池上学級の子どもの関係が育っていることも実感した。本時では教師の丁寧な導入により「楽しそう」「やってみたい」という願いを持ち、子どもたちが主体的に授業に取り組む姿が見られた。子どもたちのつぶやきや発言を生かしながら、本時何をするのか丁寧に全体で確認することで、具体的なイメージや見通しを持ち本時の活動に取り組むことができた。また、イメージマップやイラストの会話(付箋の活用)をもとに書くことで、文章で書くことは苦手な子どもであっても、意欲的に取り組むことができたのではないだろうか。池上先生の子どもの主体性を大切に、友と共に協働して作りあげる授業こそ今、求められる学びではないだろうか。池上先生の姿から教師として大切なことを学ばせて頂くことができた。

○単元構想や授業を考えると、目指す姿は何か、発問は何か、導入の流れ、準備するもの…と考えていきます。これも間違いではないと思うのですが、教師の考え方の積み重ね、子どもたちの小さな成長の積み重ねを大切に、普段やっていることが授業に密接に関わっていることを今回の授業や委員会を通して改めて感じました。実際に見せていただいた授業、書くことに苦手を感じている児童がいると前もって聞いていましたが、実際に観た子どもたちの姿からは

いことやグループワークを取り入れるよさに気づけたこと。自分では気づけなかった、子どものつぶやきや学びに向かう姿を知ることができたことなど、研究授業を通して自身の授業づくりに対する意識が大きく変わったことを話してくださいました。

北原和俊先生からは、池上先生の実践は、子どもの実態に立ち、学級づくりに力を入れながら、そこで培った力を授業づくりに活かしていったものであり、学級づくりや授業づくりに日々悩みながら懸命に頑張っている若い先生方にとっては学ぶことが多い実践であること。池上先生の学級づくりの4つの重点は、「子どもに寄り添い同じ立場に立って



北原和俊先生のご指導

の関わり・支援」であり、子どもに寄り添うとは、まずその子の課題も含めて丸ごと受け入れること。すぐに結果を求めるのではなく、その子のわずかな変化や成長を認め、賞賛すること」だと話されました。

※池上先生の発表レポート、北原先生のご指導の内容については、各校へ配信されていますので、ぜひご覧ください。

## ～松木先生の講演の概要～

### 1 現代社会における新しい学力とインクリューション及び

#### ICT教育の関係について

これからの日本の教育については、これまで主にしてきた知識・技能の学習も大事ではあるが、この先の（グローバル的な）世の中で生きていくために必要な力（求められていく力）は、資質・能力である。しかし、この力を身につけるためには、これまでの『教える』という方法（支援）では難しい。この力を育てる（身につける）ためには、『自己を省察する』ことができないといけない。

気がかりな児童に対し、どうやって授業をつくっていくか。知識は教えることができるが、資質・能力は教えることができない。主体的・自立的な活動の中で育てていく。覚える中では、育たない。総合的な学習、生活科の中で培っていく。

### 2 通常学級におけるインクリューションについて

一人ひとりの違いを乗り越えていくための手立てを、どう講じるとよいのか。そのために必要なものを用意していく。その一つとして『EdTechの活用』が役に立つ。

### 3 子どものどんな変化を待ち受け、何を準備していけばよいのか

子どもの認識発達を理解することが大事である。子どもの認識発達とは、『直感的⇒言語化⇒分析的⇒私にとって（意味）』というキーワードを基にするとわかり易く、『共感（2ヶ月～2歳頃の感情の共有）⇒共同（3歳頃の行動の共有）⇒協同（5歳～低学年頃の目的（めあて）の共有⇒協働（中・高学年～中学頃の社会的課題意識の共有）の変化』のことであり、そのことを理解することが大事になる。これからは、『競争ではない、協働の教育活動』が大切である。



松木健一先生のご講演

松木先生のお話は、世界的な視野に立ち今後の日本の教育のあり方（方向）を指し示してくださる内容でした。これからの社会で生き抜く力を子ども達が身につけていくためには、教職という立場の我々がどう行動していくことができるのか（必要なのか）を、考えさせてもらえる内容でした。

正直わからないほどでした。それは「書きたい」「やりたい」そう思えるような授業の作り方、安心して意見交換ができる友だち関係、自分の書いた物を池上先生は認めてくれる、そう子どもたちがわかっているからだと感じました。自分も頑張らねばと気持ちを改め、とても実りある時間でした。

## 参加者の感想

### 1 第1部 池上先生の実践発表と北原先生のご指導について

・ICTを活用したり、一人ひとりの児童の発言や思考を大切にしていたりすることで、安心できるクラスを作られていることが伝わってきました。

・物語を考えると、自由度が高い分、子ども達にとって難易度が高くなる題材だと思えます。そんな中でも、グレーゾーンの子ども達も含めて授業に取り組むことができていたのは、先生側からの工夫がされていたり、子ども同士で助け合う学級づくりがされていたりしたためだと思います。インクルーシブ教育、ICT教育の方法について、とても参考になりました。

・私自身も現在担任している学級に配慮を要する児童が多く、悩みながら日々を送っています。池上先生も同じような環境にいて子どもたちのために奮闘していることを知り、自分も頑張ろうと励まされました。

### 2 第2部 松木先生のご講演について

・これからの社会に生きていく子ども達に、どのような生きる力を育てていくかを常に考え、授業に活かしていくことが大切だと改めて感じました。多様で情報に溢れた社会を生き抜いていくため、インクルーシブ教育、ICT教育の考えがカギになっていくと思います。それらを生かしていくため、教師側こそが理解を深めていくことが必要だと思いました。

・中学校は来年度から新学習指導要領に移行するわけですが、なぜ3観点なのかということを知りやすく教えていただきました。今までの知識・技能を詰め込みだけで覚えるのではなく、資質・能力の力をつけるために、実際の身体的な活動を通し、バーチャル化した道具を用いて力をつけていくことが大切であることを教えていただきました。インクリューションと言われますが、その必要性もよく分かりました。上手く回っていかない学級もよくありますが、今の世界、社会を見たときに、この学級の中で、みんなが何か同じ目標を持ち、それぞれに活動していくということがこれからの学校ではとても大事で、これから生きていくためにはとても必要なのだということを感じます。子どもの発達段階を我々がしっかりと理解した上で学級活動をどう仕組んでいくのかという重要性を松木先生のお話をお聞きして感じ取ることができました。